

分散会 5

司会者 松本 真二郎

記録者 中井 佐衣子

会場責任者 和田 瑞穂

島根県豊川地区つろうて子育て推進協議会（島根県）

「豊川地区つろうて子育て」事業で「スクールコミュニティ」を！

平成 24 年 10 月「豊川地区つろうて子育て推進協議会」が設立された。

- 1 中高生による地域活動「とよかわっしょい!!」を設立し、地域の中に中高校生の居場所や役割を与えながら活動を行っている。自分たちで豊川地区を盛り上げる気持ちの高まりが自発的活動となり、地域の活性化へとつながっている。
- 2 地域の中に学校外とのつながりと学びの場を作るために、寺子屋を創設。放課後や土曜日等に開設している。平成 26 年度には、益田市の NPO 法人 eboard と連携し、「とよかわ寺子屋 eboard 教室」を開校。地域ボランティアや公民館職員の運営のもと、中学生が参加している。
- 3 小学校をコミュニティスクールとし、「学校運営協議会」が設立された。「地域×親×学校」の新たな仕組みが作られ、「豊川の将来を考える会準備会」も発足した。



河野 利文氏

NPO 法人えひめグローバルネットワーク（香川県）

ESD～持続可能な未来づくり～の香川県での取組

ESD とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代、また、環境、文化、国際、人権、経済などの関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて

山下 貴史氏

行動を改革するための教育のこと」である。この環境 ESD をキーワードに、地域と児童が関わりながら活動してきた。3 年目の普通寺市立筆岡小学校での取組では、小学校、大学、NPO、企業、メディアが関わって活動を展開した。3 年生 41 名が、「日本の四季から木と葉っぱ」と称して、主に総合的な学習の時間や図工の授業、遠足や学習発表会などを通して活動を行い、ESD が重視する 7 つの能力・態度を育てることができた。



JR 下灘駅フィールドミュージアム運営委員会（愛媛県）

何もないけど何かある～無人駅を人の集まる場所に～

映画やテレビのロケ地、青春 18 きっぷのポスターに使用されるなど、全国各地から多くの観光客が訪れる JR 下灘駅。そこには、「何もないけど何かある」の言葉が醸し出すような魅力ある風景と地域の人情がある。この JR 下灘駅周辺を「まちのミュージ



富田 敏氏

アム（美術館・植物苑・文化ホール等）」として捉え、地元の自治公民館や小学校と連携して、JR 下灘駅フィールドミュージアム構想を展開している。

きっかけは高齢の女性 3 人が駅舎の中に花を生け始めたことである。それを見ていた男性 3 人が草刈りをして花づくりを始めた。その後老人会が無人駅の清掃美化活動を行うようになり、少しずつ活動が広がっていった。昭和 61 年から始まった「夕焼けプラットホームコンサート」は、毎年 9 月の第 1 土曜日に行っており、今年第 30 回を迎えた。演劇や紙芝居、子どもによる人形劇などを行っている。また、毎月最終土曜日には軽トラ市なども開催している。

島根県豊川地区つろうて子育て推進協議会（島根県）

Q 公民館を借りて寺子屋の開設をされているが、費用はどのようにしているのか。

A 公民館事業として位置づけている。教えることがおもしろいという地域のボランティアの方たちが積極的に関わってくださっている。

Q 校内にスペースを作るのに教育委員会の許可がいるのか。

A 学校の施設管理や防犯上の関係で難しい面もあるが、最終的には校長判断である。地域によっては開放している学校もある。校内に児童クラブがあるような地域もあるが、そうでない地域もある。

Q 学校の先生たちはどのように関わっているのか。

A 学校の先生は異動があるので、期待しすぎたり頼りすぎたりしないよう、自分たちがやるんだという気持ちで活動している。「こんな活動をしたいのですが、どうですか。」というような提案を私が間に入ってやりとりしている。

Q 学校と地域が話し合っ、ある程度方針を決めた上で、先生が異動してもそのまま動いていくのがコミュニティスクールの基本的な考え方だと思うが…。

A 学校の経営計画を立てる際に、学習指導要領に基づいて地域と学校は協力して活動するように話し合っている。むやみにプラスαを求めることはしてはいけないという考えである。今年度は保育園・小学校と地域の老人クラブ、公民館が協力をして大豆作りを行った。こういった活動は年度当初に小学校としての目的、保育園としての目的をしっかりと話し合い、互いに調整をしながら行ってきた。

Q 「豊川地区つろうて子育て推進協議会」と「学校運営協議会」の関わりについて

A 「学校運営協議会」は学校運営に関して一番の相談役であり、経営母体であるので、普段子どもに関わっていない人たちや子どもたちのことをよく考えてくれている人で「学校運営協議会」を作りたかった。「学校運営協議会」で話し合ったことを「豊川地区つろうて子育て推進協議会」で報告したうえで活動することが前提である。

- ・ 公民館活動をすると、参加者、協力者が決まってくる。また、大人主体の活動はよくあるが、このように子どもを含めて活動することにより、将来性も見えてくる。そういった点で大変参考になる取組であった。
- ・ 地域と学校がかなり密な関わりをもって活動していると感じた。学校の中にスペースを作るのは、教育委員会が働きかけないと難しかったのではないかと驚いた。
- ・ 統廃合して学校が少なくなっていく中、このように生き生きと活動されているのがすばらしい。

NPO 法人えひめグローバルネットワーク（香川県）

Q ESDの活動で大切にしている「持続可能な」というのは、環境の未来を守っていくという点で持続可能という意味もあるだろうが、他に何を心がけているのか。事例などを聞かせてほしい。

A まちづくりの分野の一例として、川のすぐ脇に交通量の多い危険な道路があって、通学路になっていることもあり、子どもも参画して再開発をしたことがある。道路にわざとカーブを付けたことで車もスピードを落とし、課題を解決した。

Q 「ふる里へもういちど」今回ピックアップした自然との関連性について

A 「大事に守っていきたいいつまでも」というのは、誰でも思うことであるが、どうしたら大事に守っていけるか、いろんな意見を出しながら課題解決をするのがESDである。

Q 「大事に守っていききたいいつまでも」というのは、本当に誰でも思っていることなのだろうか。

A 「自分の住んでいるところはいいな」と思わせる仕掛けが大切だと考える。共通の機会や認識があれば、持続可能な方向性が見えてくる。

Q 着地点は決まっているのか。

A 最終的な答えを示すのではなく、自分たちの意見や考えを大事にし、それがなぜなのか、相手に伝えられる力をつけたい。知識は与えるが、基本的には子どもたちの主体性を大切にしたい。



JR 下灘駅フィールドミュージアム運営委員会（愛媛県）

Q コンセプトはどのようにして思いついたのか。駅をミュージアムにする発想なんてなかなか思いつくものではない。

A 下灘駅は、国鉄から JR に民営化された時に無人駅になった。その際、廃線されないように、何かできないかと、若松進一さんと若者たちが夕焼けプラットフォームのコンサートを始めた。最初は東京フィルに来てもらってコンサートを開いた。その後、博物館とかミュージックホール、植物園など、いろいろな使い方ができるという考えでフィールドミュージアムを始めた。天気の悪いときは、駅舎の隣にある屋根付きの駐輪場を「市民文化ホール」と称して発表をやっている。

Q そこが文化の拠点となっていると考えてよいのか。

A 過疎地域では、どうしても文化的なものにふれあう機会が少ない。学校の外にそういった学びの場が設けられたら喜ばしい。

Q 軽トラ市について

A 毎月 1 回実施。野菜、魚、雑貨などなんでも売っている。商店街がなくなってしまったので、高齢者が外出する機会が減ってきた。月に 1 回でも家から出てきて買い物を楽しんでもらえればうれしい。

Q 富田さんは、最初からここに移住するつもりで来られたのか。

A 震災がきっかけだった。それまでは、東京で上にのぼりつめようと思っていた。たまたま地域おこし協力隊を見つけたが、最初は福岡や名古屋の都市部で考えていた。

Q 双海に来られてどうか

A 最初は馴染めず、地域づくりのことが分からなかった。課題も案外なく、みなさん心豊かに暮らしていた。よくある課題解決の仕組みのようなものは一切やってない。

Q フィールドミュージアムの作品集めや企画はどうするのか。

A 基本的には地元の老人会、公民館の皆さんがやってみたいことをやる。例えば、昔の紙芝居を子どもたちに見せてあげたいという声が出たらそれを採用し、地元の民話を書き出し、オリジナルストーリーを作り、発表会をミュージアムでやるという形である。

Q 外から人が集まってくる場合、困ることも出てくる。その際の地域の方への対処法はどうか。

A 最初のうちは「子どもたちの将来のためにやっています。」などと、丁寧に説明するしかなかった。最近では、観光客の集まりすぎでゴミや渋滞が発生しているのが問題となっている。また、マスクミ対応なども、内に絞っていくものと外にアピールするもののバランスが難しい。